



国境なき医師団“紛争地のいま”展

命を救う場所に、
爆弾がふりそそぐ。
なぜ……



シリア、アフガニスタン、イエメン、南スーダン…。紛争地では、命を救う場所であるはずの病院が攻撃の標的となっています。国境なき医師団日本では、この非人道的な事態を日本の皆さまにも広くお伝えし、ご支援をお願いする「病院を撃つな！」キャンペーンの一環として写真展を開催します。医療施設への攻撃の実情、そして紛争下でも続く人びとの暮らしを迫力ある写真と映像でお伝えします。

2017
2/23 thu → **2/26** sun

10:30～20:00 最終入場は19:30

▶2月23日(初日)開場15:00 ▶2月26日(最終日)閉場19:00 最終入場18:30

主催：特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

グランフロント大阪
うめきたSHIPホール

JR大阪駅・中央北口前 うめきた広場

入場無料

お問い合わせ先

TEL. **0120-999-199** (9:00～19:00無休)
東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階



国境なき医師団“紛争地のいま”展では、紛争地で医療施設や患者を狙った攻撃が繰り返されている現状と、過酷な状況でも希望をつないで生きる人びとの生活を、迫力のある写真と映像でお伝えします。

ゾーン1 医療施設に対する破壊のすさまじさを体感する
ゾーン3 なぜ病院への攻撃がやまないのか？その背景を学ぶ

ゾーン2 住民、患者、スタッフは…“紛争地のいま”を読み解く
ゾーン4 考えたこと・感じたことを、あなたの言葉で発信する

派遣スタッフトーク ～紛争地の活動を通して～

▶13:00～▶15:00～▶17:00～▶19:00～

*初日13時、15時、最終日19時の回はスタッフトークはありません。
 各回約20分 “紛争地のいま”展ゾーン3内(参加無料/予約不要)

現地活動経験者による「生の声」を聞いてみませんか？実際に紛争地で活動をした日本人派遣スタッフから紛争地での活動や現地の人びとの生活などをお伝えします。



爆撃で破壊されたクドゥーズ外傷センターに書かれた「Why?」の文字 (アフガニスタン)



銃撃で重傷を負った片脚の切除手術を受けた男子(南スーダン)



シリア人難民の赤ちゃんを抱き上げるシリア出身の国境なき医師団のスタッフ (イラク)



紛争からの避難生活で重度の栄養失調に陥った女の子(アフガニスタン)

写真 左: ©Dan Sermand 中上: ©Dominic Nahr 中下: ©Baudouin Nach 右: ©Kadir Van Lohuizen 表面写真 上: ©Andrew Quilty/Oculi 下: ©Victor J. Blue

命を救う場所に、爆弾がふりそそぐ。なぜ……

2015年10月3日、国境なき医師団(MSF)がアフガニスタンで運営する病院が米軍による空爆を受け、患者・スタッフ42人が命を落とすという陰惨な出来事が起きました。**医療施設への攻撃はその後世界各地で繰り返されています。**

なぜ、命を救う場所に爆弾が降りそそぐのか。なぜ、患者や医療者や彼らを支える人びとの命を狙うのか。たくさんの「なぜ」が、私たちの中にうずまいています。

2016年5月3日の国連安全保障理事会では、紛争下での病院、医療・人道援助活動従事者、傷病者への攻撃を強く非難し、そうした事態に対しては迅速で公正な調査を求める決議が全会一致で採択されました。この決議作成には、**日本も提案5カ国のひとつとして加わっています。**この国連決議が机上の空論に終わり、**医療施設への攻撃が常態化することがあってはなりません。**

MSFは「病院を撃つな！」キャンペーンを展開し、皆さまのご理解・ご支援をお願いしてまいります。

▶▶▶キャンペーン特設サイトはこちら www.msf.or.jp/utsuna

病院を撃つな 🔍 検索



国境なき医師団とは

国境なき医師団は、1971年にフランスで設立された、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体です。危機に瀕した人びとの緊急医療援助を主な目的とし、医師・看護師をはじめとする約7000人以上の海外派遣スタッフと、約3万1000人の現地スタッフ、約70の国と地域で活動しています(2015年度)。

VOICE

私たちと一緒に声を上げてください

MSFは、世界中のすべての紛争当事者に向け、今日も訴え続けています。それでも、声がかき消されてしまうのです。空爆に、砲撃に、そして機銃掃射の爆音に……。

私たちと一緒に声を上げてください。病院を撃つな！とあなたの声で伝えてください。命を奪う音に負けない大きな声が必要です。ご理解・ご支援をよろしくお願いたします。

署名する

MSFは、左記の国連決議が単なる文書にとどまらず、医療施設・スタッフ及び患者の中立・保護を維持し、攻撃の責任者に説明を果たさせる具体的な行動に結びつくよう、あらゆる影響力の行使を日本政府に求める署名活動を実施中です。

趣旨にご賛同いただける方は右のリンクまたは下記のウェブサイトよりご署名をお願いいたします。

(2017年3月31日受付終了)



www.msf.or.jp/utsuna/shomei.html